

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2023年 2月 15日

事業所名 ナナホシ 蘇原事業所

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		子どもやスタッフの位置を見ながら、子どもの活動内容に合わせて場所の提案をしている。	身体を動かして活動するのに十分なスペースを確保できている。
	2	職員の配置数は適切である	○		基準以上の配置となるようにしている。	基準人員配置以上の職員を配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		バリアフリーを必要としている利用者がいない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			朝礼、終礼時に情報の共有を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			自社ホームページにて公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在、第三者評価は行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			新入社員研修が行われている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		契約時にはアセスメントシートの記入、聞き取りを行い、子どもの様子を共有している。	保護者と面談、相談をしながらニーズや課題を分析し、支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		当事業所で使用しやすいようにしたツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			主となる者を中心に、他スタッフと相談しながら計画をしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		各利用者のやりたいことを尊重し支援している。	過去に行ったプログラムと照らし合わせ、いろいろな活動ができるように考え計画している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			イベントを企画し、子どもたちそれぞれに合った課題を設けている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個別活動、集団活動と分けて計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝始業時にミーティングを行っている。	始業時のミーティングで確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日終業時にミーティングを行っている。	終業時にミーティングを行い、気になった点などの情報を共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			保護者と共有している成長療育支援システムやミーティング日誌にて記録を残している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			6ヶ月に一度モニタリングを行っている。それ以外でも必要であれば計画の見直しや保護者との面談を行う。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者・管理者を中心に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校へお迎えへ行った際に情報を共有している。	学校へのお迎え時に情報を共有したり、保護者を通して連絡、調整を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			現在必要な利用者を受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			今後必要であれば情報共有し連携を取っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			今後必要であれば情報共有し連携を取っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				施設外支援にて一緒に活動する機会がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				市の子ども部会等に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時や支援記録にて状況をお伝えしている。	送迎時に様子を直接お伝えし、ネット上で閲覧できるサービス提供記録を来所毎に記録している。加えて、LINEなどのツールも活用している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				事業所で試みた対応などの情報を共有したり、保護者からの相談を引き出したりしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			随時相談は受け付けている。	相談があった場合には迅速かつ丁寧に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		月1回の保護者会を設けている。	今年度はコロナ禍のため行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			重要事項説明書に記載し、契約時に口頭にて説明している。	苦情がないような支援を行うとともに、苦情が生じた場合はマニュアルに沿って適切に対応できるように体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				定期的にホームページのブログを更新、毎月のおたよりの発行を行っている。
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				各利用者、保護者に合った方法で伝達している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			現在行ってない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	契約時に保護者には説明し、それ以外にも必要に合わせて周知している。	マニュアルの作成、整備を徹底している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	半年に1回避難訓練を行っている。	避難訓練を実施する際に計画書及び結果を管轄である消防署へ提出した上でやっている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	毎月末に虐待防止チェックリストの記入を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		現在該当する利用者はいないが、そのようなことがあった場合には保護者への十分な説明や了承を得るなど適切な対応が出来るようにしておく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		利用者のアレルギーについては各保護者と相談し対応している。おやつメニューも配慮して提供している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		